

鹿児島大学唐湊果樹園実習における技術職員の役割



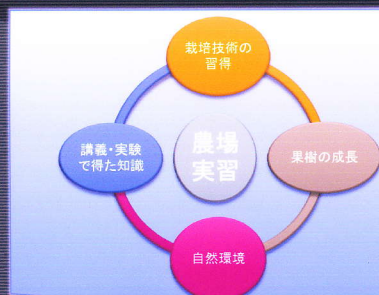
鹿児島大学農学部附属農場・附属演習林及び教育学部実習地技術部 福留 弘康

鹿児島大学農学部附属農場「唐湊果樹園」は、1916年（大正5年）7月に設置された果樹専門の施設である。大学キャンパスの西南部2kmの傾斜地に位置しており、約7.3haの用地（耕作面積4ha）に常緑果樹（2種類125品種・系統）、落葉果樹（11種類36品種・系統）、及び熱帯・亜熱帯果樹（9種類37品種・系統）を栽培・保存しており、それらを対象とした実習教育と研究を行っている。

職員構成は植物部門主任（准教授）、技術専門職員2名、技術職員2名、事務補佐員1名からなるが、実習教育は農学部果樹園芸学研究室及び害虫学研究室からの農場兼担教員を中心に実施している。



収穫実習



唐湊果樹園実習コンセプト

本農場の実習教育は、学生が講義・実験で得た知識・技術を農業の場において自ら実践し、講義・実験と実習の有機的な結合を学ばせることにある。唐湊果樹園では以下の3点をコンセプトに農場実習に取り組んでいる。

- I. 果樹の成長と自然環境との関係を理解させる。
- II. 果樹園芸に関する基本技術を習得し、栽培技術をより向上させる。
- III. 季節による果樹の生育と栽培技術の違いを理解させる。

実習の流れ

教員による実習内容の講義

学生を班分けし、技術職員が各班を直接指導

班分けをすることにより、学生へのきめ細かい、効率的な技術指導が可能

唐湊果樹園の特色のある農場実習

唐湊果樹園の実習内容を第1表、第2表に示した。4学科中3学科の学生を対象として夏季・春季の集中実習、通常授業としての終日・半日実習を行っており、180分1コマで換算した年間実習数は90コマになり、延べでは約2000人の学生が実習に訪れる。実習は上記教員と技術職員が一体となって行っている。具体的な実習の流れは、教員による実習内容の講義のあとに学生を班分けし、技術職員が各班を直接指導する方法で行っている。班分けをすることにより、学生へのきめ細かい、効率的な技術指導が可能となっている。また、当然のことながら、技術職員は実習を安全・円滑・効果的に学生に提供できるように事前準備も含めて、日常業務を行っている。そして、職員は単に技術指導だけでなく、実習での経験が学生の将来の進路を切り開くきっかけになるような「人間教育」の場であるという意識を持って指導に臨んでいる。

第1表 唐湊果樹園の実習

区分	実習対象	実習期間	学生数
集中実習	生物生産学科1年生	2月、9月の年2回（集中3日間）	約50名
	生物生産学科植物生産学 病害虫制御コース3年(5期)	8月（集中3日間）	約30名
	生物生産学科植物生産学 園芸生産学コース2年(4期)	2月（集中3日間）	約20名
終日実習	生物資源化学科食糧生産化学コース3年生	8月（集中3日間）	約20名
	生物生産学科植物生産学コース	2年（4期）～3年（5期）の約1年間 毎週1回（月曜日）	約40名
半日実習	生物環境学科環境システム学コース	2年（4期）～3年（5期）の約1年間 毎週金曜日の午後	約55名
	生物環境学科生産環境工学コース		
	生物生産学科農業経営経済学コース		



カキの剪定

第2表 唐湊果樹園の実習内容

区分	実習内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全般	学生管理												
カンキツ	防風樹管理												
	ゴマダラカミキリ虫防除												
	施肥												
ピロ	収穫 摘果												
	不始火・ビニルかけ												
	幼樹防除												
落葉果樹	剪定												
	樹冠施用												
	モモの摘果、袋かけ												
果樹苗	カキの摘果、脱洗												
	カキの剪定												
	ブルーベリーの挿し木												
	ブルーベリーのシロシロ剪除												
	カキ、ビロの摘果												
	摘果木苗経過観察												
	鉢上げ、鉢替え、除草、施肥												



草生管理



防風樹管理



カキの脱洗



果樹苗の鉢替え



ゴマダラカミキリ虫防除

実習を・・・安全に、円滑に、効果的に

技術職員でよかった・・・



私は学生から「先生はよく私たちの名前を憶えていますよね。」と言われることが多い。学生との信頼関係を築くための第一歩として常日頃から心がけていることであるが、学生は名前を呼ばれることで、実習に対して前向きになれ、やる気がでるということであった。また、実習を経験したことによって技術職員や農業の指導者を目指したいという声もあり、多くの学生が嬉しそうに、時には涙ぐみながら話をしてくれた時に技術職員であることに幸せを感じる。今後も、ただ漠然と実習に参加するのではなく、学生一人一人と接しながら、達成感や仲間を大切にすることを感ぜられるような環境を作っていく覚悟である。そして、実習を離れ、進路を進む学生の記憶の中にずっと私たちが残れるように努力したい。

私たちは果樹を育て、学生も育てる！！